

練習問題

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

これも今は昔、山科(やましな)の道づらに、四の宮川原といふ所にて、袖くらべといふ、あき人(注1)あつまる所あり。その辺の下種(げす)のありける、地藏菩薩(ぼさつ)を一体造りたてまつりたりけるを、開眼(かいげん)もせで(注3)櫃(ひつ)にうちいれて、奥のへやなどおぼしき所に納め置きて、世のいとなみにまぎれて、程経(ちやうけい)にければ、忘れにける程に、三四年ばかりすぎ(a)にけり。ある夜、夢に、大路(だいじ)をすぐる者(もの)の声だかに人よぶ声のしければ、A「何事ぞ」ときけば、B「地藏こそ」と、高くこの家の前にていふなれば、奥のかたより、C「何事ぞ」と、いらふる声(こゑ)なり。D「明日、天帝(てんたい)釈(しやく)の地藏(注5)会(あ)し給ふには、参らせ給はぬか」といへば、この小家のうちより、「参らんと思へど、まだ目のあかねば、え参るまじく」といへば、「かまへて参り給へ」といへば、「目も見えねば、いかでか参らん」といふ声(こゑ)なり。うちおどろきて、なにかくは夢に見えつるにかと思ひ参らするに、あやしくて、夜あけて、奥のかたをよくよく見れば、この地藏納めて置きたてまつりたりけるを思ひ出だして、見出だしたりけり。これが見え給ふにこそと、おどろき思ひ

〔出典〕

『宇治拾遺物語』

〔重要語句〕

○下種

○おぼし

○程

○経

○いらふ

○えゝ打消

○かまへて

○見ゆ

○いかで

○おどろく

○かく

○あやし

〔重要敬語〕

○たてまつる

て、いそぎ開眼したてまつりけりとなん。

〔『宇治拾遺物語』〕

(注) 1 袖くらべ——品物の売買の際、売手と買手が袖の中に手を入れ、握りあった数で値段を決める取引法。ここでは、それが行われる市場が地名化したもの。

2 あき人——商いをする人、商人。

3 開眼——新しく作った仏像に目を入れ、魂を吹き込むこと。

4 櫃——上からふたをする大型の箱。

5 天帝釈——仏法の守護を司る神。

6 地藏会——地藏菩薩のために行う法会。ほろえ

問一 二重傍線部 a～e の助動詞の文法的意味として最も適当なものを、次のア～エから、そ

れぞれ一つずつ選べ(ただし、同じ記号を何度選んでもよい)。

ア 打消 イ 完了 ウ 断定 エ 伝聞・推定

| | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|
| a | | | | | |
| b | | | | | |
| c | | | | | |
| d | | | | | |
| e | | | | | |

問二 傍線部 1 「大路をすぐる者の」以下の文章は、夢の中の描写であるが、その描写はどこで終わっているか、次のア～エから一つ選べ。

○給ふ

○参る

○参らす

〔古典常識〕

○地藏菩薩